

山鹿中学校便り 統合元年 新生山中 一致協働

令和2年3月14日(土) No.14

平成元年度第73回山鹿市立山鹿中学校卒業証書授与式 校長式辞

冬の寒さも和らぎ、暖かい日差しに春の訪れを感じるこの良き日に、新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業生、保護者の皆様にはたいへんご心配をおかけいたしました。本日ここに、山鹿中学校第七十三回卒業証書授与式を挙げてまいりますことに心より感謝申し上げます。

241名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。今日は、統合元年の生徒会スローガンの「糸」の集大成です。新生山中のリーダーとして皆さんの胸にはどのような思いがよぎっているのでしょうか。

さて、私は、ほとんどの皆さんとは昨年四月に出会いました。わずか一年のご縁でしたが、この一年は、実に感慨深い一年でした。山鹿中学校の新たなスタートの年、皆さんが最高学年として、授業、学校行事、生徒会活動、部活動に「一致協働」して頑張る姿は、いつまでも記憶に残るものであります。

春、「一意奮闘～心をついに全力 全開 全員エンジョイ～」の大会テーマのもと一致団結してやり遂げた体育大会。すべての競技に全力を尽くして取り組んでくれました。

夏、中体連大会や各種大会、コンクールにおいて、山中スピリッツを存分に発揮し、輝かしい成績を収めてくれました。

秋、文芸発表会での合唱コンクールでは、どのクラスもこれこそ山鹿中三年生の歌声とばかり見事に歌い上げ、感動を与えてくれました。

冬、九州中学駅伝の男女アベック優勝、全国中学駅伝女子の部五位という偉業を成し遂げてくれました。

この一年、いずれの行事も、皆さんが強いリーダーシップを発揮し、後輩を引っ張ってくれました。山鹿中学校の生徒のすばらしさと伝統の力を見ました。本当によく頑張ってくれました。ありがとうございました。

さて、卒業生の皆さんの門出にあたり、「人のために尽くす」という話をします。皆さんが小学校六年生になってまもなく起きた熊本地震は、本県の歴史や社会を大きく変えた未曾有の大災害でした。あのピンチの時、私たちは今何をすべきか真剣に考えて行動しました。また、国内外から救助、復興のためたくさんの方が集まりました。人と人とのつながりのありがたさ、温かさ、人が人のために尽くすことの大切さを強く感じました。この熊本地震を見てきた皆さんだからこそ、これから先も、自分が何をすべきか真剣に考え、人と人とのつながりを大切に、自分のことだけを考えるのではなく、常に人のために尽くすような大人になるように、志を高く生きていってほしいと強く願っています。

幸せには三つあると言われていています。一つ目の幸せは「してもらって幸せ」、二つ目は、自分で「できる幸せ」。そして、最後は、人に「してあげる幸せ」。です。卒業生の皆さんは、これまで家族をはじめ多くの方に支えられ、「してもらって幸せ」、そして、「できる幸せ」を味わってきました。これからは、それぞれ歩む道は異なりますが、周囲への感謝の気持ちを忘れずに、「人のために尽くす」こと、たくさん「してあげる幸せ」を味わえるような人生を送ってほしい、皆さんの未来が、明るく輝き、希望に満ちたものになることを願っています。

保護者の皆様一言ご挨拶申し上げます。本日は、お子様のご卒業おめでとうでございます。心からお祝い申し上げます。保護者の皆様には、本校教育の充実発展のため、御支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。卒業生の一番の応援団として、温かい励ましと御理解があったからこそ、本日卒業の日を迎えることができました。ありがとうございました。

卒業生のみなさん。皆さん一人一人が、校訓「豊かな情操、逞しい心身、磨かれた知性」を身につけ、山中スピリッツ「あきらめない 絶対に あきらめない」気持ちで、夢や志を持ち続け、統合元年、令和元年度の卒業生として大きく羽ばたいてくれることを期待するとともに、ご参列の保護者の皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念しまして、式辞といたします。

令和2年3月14日

山鹿市立山鹿中学校長 田上 明利